

# 込山B遺跡ほか 発掘調査報告書 1997

—平成9年度試掘調査報告書—

1998. 3

坂 城 町 教 育 委 員 会

## 例 言

- 1 本書は、長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成9年度の試掘調査の報告書である。
- 2 調査の費用は、国庫及び県費の補助を得て町費で対応した。
- 3 調査の体制  
調査指導者 塩入 秀敏（上田女子短期大学教授、日本考古学協会会員）  
担 当 者 塩入 秀敏（前 出）、助川 朋広、（坂城町教育委員会学芸員）  
小平 光一（坂城町教育委員会学芸員）  
協 力 者 塩野入 早苗、宮尾 美代子（以上、町臨時職員）  
島谷 久、竹内 今朝人、竹鼻 茂  
（以上、(財)更埴地域シルバー人材センター）
- 4 事務局の構成は以下のとおりである。  
教 育 長 西沢 民雄（平成9年6月退任）  
大橋 幸文（平成9年7月就任）  
生涯学習課長 赤池 利博 文化財係長 池田 美智康  
文化財係 助川 朋広、小平 光一（前 出）天田 澄子、塩野入 早苗、塚田 さゆり、  
塚田 千代、寺沢 政枝、萩野 れい子、菱田 よしえ、宮尾 美代子  
（以上、町臨時職員）
- 5 本書の執筆・編集は塩入・助川が行った。
- 6 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

## 凡 例

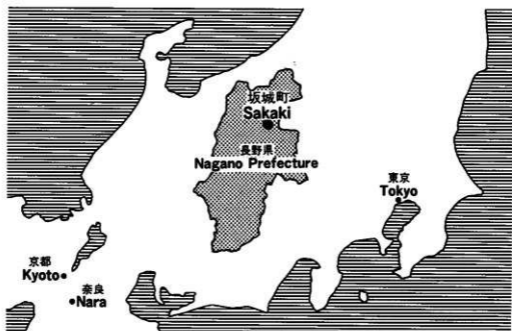
- 1 本文中の面積は、開発対象面積と調査面積を記載し、( ) 内に調査面積を記載した。
- 2 挿図の縮尺は、各図ごとに縮尺を示した。

# 目次

例言

凡例

第I章 坂城町の遺跡の立地と環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第II章 調査の結果	6
1 込山B遺跡	6
2 青木下遺跡Ⅲ	8
3 村上氏館跡	11
4 南日名遺跡	14



長野県埴科郡坂城町位置図

# 第 I 章 坂城町の遺跡の立地と環境

## 1) 地理的環境

坂城町は、東信濃と北信濃の接触点にあたり、善光寺平を構成する更地地方の最南端に位置している。県の東部から北部を貫通する千曲川は、佐久地方を経て上田・小県盆地の北端である千曲川右岸に位置する塩尻の岩鼻と、左岸に位置する半過の岩鼻から、「坂城広谷」と呼ばれる貫通谷である沖積盆地をつくりだしている。そして、坂城町の北側に位置する横吹きの岩壁をかすめて、戸倉・上山田の沖積地へと続いていく。

坂城町は、南では、両岩鼻が千曲川断層面の岩壁となり、東では、太郎山・鏡台山とを南北に続く山稜が、上田・真田・更地の市町村界となり、五里ヶ峰から葛尾山、横吹きと自在山の岩壁がネック状となり、屏風のように連なっている。西では、大林山を主峰とする山稜が連続し、上田・上山田・坂井との市町村界となっており、一地域を構成している。

右岸地域の坂城・中之条・南条地区と左岸地域である村上地域は、したがって摺り鉢状の盆地形をなす千曲川流域の独立した空間であり、広谷状をなしている。地域の特徴では、右岸地域は、西南する広い斜面と、いくつかの小河川や沢によって、形成された複合扇状地と千曲川沿いの沖積地であり、左岸地域では、千曲川断層面のなす岩壁と小さな沢や岩崖、小複合扇状地というように様相を異にしている。

## 2) 歴史的環境

坂城町の自然堤防上や小河川によって形成された複合扇状地には、いくつもの遺跡が存在し、遺跡の性格も多種多様である。これらの中で特に重要なものについて概観してみたい。

旧石器時代では、保地遺跡(3-1)から上ケ屋型彫刻器や小型の槍先型尖頭器が数点採集されており、これらの遺物より後期旧石器時代に所属する遺跡であると考えられている。

縄文時代の遺跡では、込山A・B遺跡(30-1・2)から前期・中期の土器などが検出されている。金井遺跡(2-1)からは、中期の勝坂式土器や出尻土偶が採集されている。晩期では、保地遺跡(3-1、昭和40年調査)から亀ヶ岡系の土器群が出土している。また、込山E遺跡(30-5)からは、遮光器土偶の頭部が採集されている。

弥生時代では、中期以前の調査例がなく不明な状態である。後期後半の集落としては、中町遺跡(1-4)、塚田遺跡(1-7、平成4・5年度調査)、百々目利遺跡(1-3)のように千曲川の中洲上、或いは自然堤防上に位置する遺跡と保地遺跡(3-1)のように千曲川の段丘上に位置する遺跡、和乎B遺跡のような高地性集落の可能性を秘めている遺跡も存在している。

古墳時代の集落址では、寺浦遺跡(8-1)や込山E遺跡(30-5)から4世紀代の土器が採

集されている。千曲川の自然堤防上と思われる東裏遺跡(1-1)、青木下遺跡Ⅱ(1-8)から後期の土器や祭祀遺物、祭祀遺構が検出されている。前期古墳として5世紀代に位置づけられる東平古墳の調査(平成5年度長野県埋蔵文化財センター)がある。坂城町の古墳は、未調査例が多く詳細が不明な状況ではあるが、大半が終末期にあたると思われ、河川沿いに位置している。左岸に位置する御厨社古墳(47-1)は、石室の規模が千曲川水系最大の古墳である。

奈良時代では、東裏遺跡Ⅱ(1-1)、寺浦遺跡(8-1)、宮上遺跡Ⅱ(8-5)などから集落址の様相がおぼろげながら解明され始めている。生産遺跡としては、土井ノ入窯跡(32)があげられる。

平安時代では、東裏遺跡Ⅱ(1-1)から集落址が検出されている。また、中之条地区の寺浦遺跡(8-1)、宮上遺跡Ⅱ(8-5)などからも同時代の集落址が検出されている。生産遺跡では、青木下遺跡(1-8)、塚田遺跡(1-7)、上五明条里水田址(78)から仁和4年(888年)に起きたとされる千曲川の大水の沈殿砂層に被覆された状態で、水田址が検出されている。他には、土井ノ入窯跡(32)の瓦窯があり、9世紀初頭と思われる込山廃寺(54)や上田市信濃国分寺・尼寺や更埴市正法廃寺の差し瓦の生産をしたことが明らかになっている。経塚としては、11世紀末に位置づけられる北日名経塚(40)があり、鋳鋼製鉄筒、和銃、白磁輪花小皿などが出土している。現在これらの遺物は、国立東京博物館に所管されている。

中世では、嘉保1(1094)年信濃国更級郡に配流された源頭清が始祖と考えられている村上氏が国人領主として成長した。戦国時代では武将村上義清が活躍し、東北信地方に勢力をふるった。その村上氏の城館が葛尾山頂に位置する葛尾城(44)であり、その下方にあり現在満泉寺の所在する一帯が村上氏館跡(38)である。葛尾城は天文22(1553)年、武田信玄の攻略により落城したため、現存していない。満泉寺は、天正10(1582)年に村上義清の子景国により、村上氏の先祖代々の菩提寺として建立されたとされている。その他生産遺跡として、開畝製鉄遺跡(53)があり、県内最初の製鉄遺跡の調査遺跡で、製鉄炉跡2基が検出され、千曲川の砂鉄を原料としていたことや地元産の褐鉄鉱を使用していた可能性があることが判明した。稼業年代は、村上氏末期であり、鉄の自給の必要性の結果とも考えられている。

近世では、北国街道の制定により、坂木宿や松代藩の私宿である風宿がおかれたり、交通の上でも重要な位置を占めていた。坂木・中之条村は、幕府の直轄地で天領となっており、天和元(1681)年松代藩預かりになり、天和3(1683)年坂木藩となり、元禄16(1703)年再度天領に戻った経過がある。坂木には、最初坂木陣屋がおかれたが、宝暦9(1759)年中野陣屋預かりとなり、その後焼失した事もあり、安永8(1779)年中之条陣屋に移ったとされている。

以上坂城町の遺跡から歴史について触れたわけであるが、古くから多種多様な遺跡が存在している状況が見てとれる。



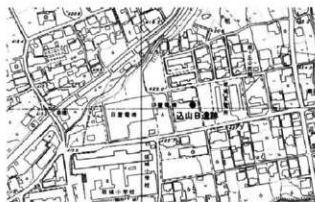


発掘調査位置図 (1 : 25,000)

## 第II章 調査の結果

### 1 込山B遺跡

所在地	坂城町大字坂城 字社宮神6256他
事業主体	坂城町建設課
事業名	町営住宅建設事業
調査期間	平成9年5月6日～ 平成9年5月16日
面積	3000㎡(約571㎡)
担当者	助川朋広・小平光一



発掘調査位置図

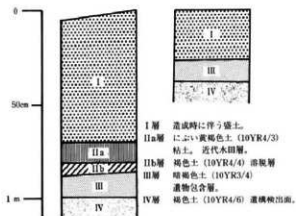
#### 遺跡の環境と経過

込山B遺跡は、坂城町坂城に所在し、標高427m内外を測る。日名沢川によって形成された扇状地の扇尖部に位置する。分布地図によると縄文～平安時代の遺跡に位置づけられ、調査地の南側には9世紀初頭に位置づけられると考えられる込山廃寺が、隣接している。周辺では、詳細な調査例がなく実態は不明であるが、本遺跡内にも関連遺構が、存在する可能性が予想されている。

今回、町営住宅建設事業が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされたため、試掘調査を実施し、遺跡の存在を確認することとなった。



遺構検出状況(東より)

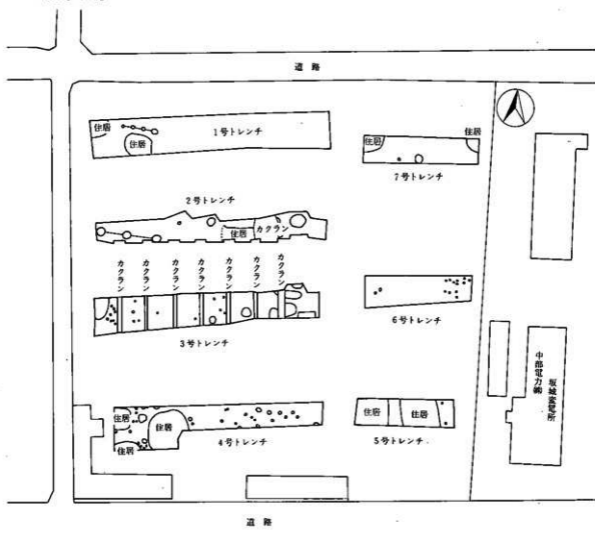


基本土層模式図



## 調査結果

開発対象地に合計7本のトレンチを入れ、遺構の存在の有無を確認した。調査対象地は、以前工場の敷地となっていたため、建物の基礎による攪乱を受けてはいたが、遺構はすべてのトレンチより検出された。検出された遺構では、竪穴住居址や掘立柱建物址などがある。遺物では、古墳時代～平安時代の土師器が主体をなし、縄文土器や込山鹿寺に関連すると思われる布目瓦の出土もあった。今回の試掘調査によって、対象地は、記録保存を前提とした発掘調査を実施することとなった。



トレンチ設定図 (1 : 500)

## 2 青木下遺跡Ⅲ

所在地	坂城町大字南条 字青木下639-1他
事業主体	株式会社いせやコーポ レーション
事業名	店舗建設事業
調査期間	平成9年6月3日～ 平成9年6月11日
面積	1000m <sup>2</sup> (460m <sup>2</sup> )
担当者	助川朋広・小平光一



発掘調査位置図

### 遺跡の環境と経過

青木下遺跡は、坂城町南条に所在し、標高413m内外を測る。千曲川によって形成された沖積地の自然堤防上と後背湿地に位置する。分布地図によると縄文～平安時代の集落址、水田址に位置づけられ、青木下遺跡Ⅱの調査では、古墳時代後期の祭祀遺構が検出され、おびただしい出土遺物があったこと、環状に配列された土器列の検出により、重要な遺跡と位置づけられている。

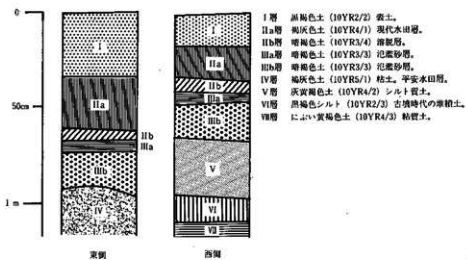
今回、株式会社いせやコーポレーションが行う店舗建設事業が計画変更され、遺跡の破壊が余儀なくされたため、建設対象地内に青木下遺跡Ⅱの調査でみられた祭祀遺構などが、存在しているかどうか確認するための試掘調査を行った。



遺構近景 (南より)

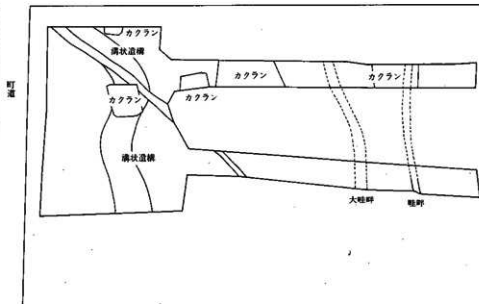


遺構検出状況 (南より)



基本土層模式図

鼠橋通り



発掘トレンチ設定図 (1:400)

## 調査結果

対象調査面積は、約1000㎡であり、祭祀遺構が検出された場所に隣接しているため、トレンチを東西方向に設定した。調査の目的は、自然堤防上では、祭祀遺構の存在の有無、竪穴住居址の有無を確認する事を、後背湿地にあたる場所では、水田址のあり方を確認する事に主眼をおいた。

調査の結果、調査区の東側にあたる後背湿地部分では、青木下遺跡Ⅱの水田址でのあり方に大過ない状態であり、仁和4(888)年に起きたとされる、千曲川の大洪水の沈澱砂層に被覆された状態で検出された。調査区の西側の自然堤防上部分では、青木下遺跡Ⅱに見られたおびただしい土器や祭祀遺構は検出されず、また出土遺物も少ない状態であった。検出された遺構は、溝状遺構が3条であり、過去に実施した青木下遺跡や青木下遺跡Ⅱの調査で検出されていたもので、今回の調査によって全容を伺いしれる結果が得られるものと思われる。

青木下遺跡の基本層序は、基本土層模式図のとおり後背湿地部分と自然堤防部分では、様相が異なり、後背湿地部分では、第Ⅲb層が仁和4年の氾濫砂層と思われ、第Ⅳ層が平安時代の氾濫砂層に被覆された平安時代の水田層と考えられる。自然堤防部分では、第Ⅴ層がシルト質土で古墳時代後期以降の堆積土と思われる。青木下遺跡Ⅱの調査では、祭祀遺構を覆っていた面となる。第Ⅵ層は古墳時代後期遺物包含層で、遺構はこの面より掘り込まれているようであるが、面的に確認できることはできない。第Ⅶ層が遺構の確認できる面と言える。以下図示していないが、縄文時代の遺物包含層も存在する。

今回の試掘調査によって、開発対象地は当然記録保存を前提とした発掘調査が必要であることが判明したばかりでなく、本調査を実施する事によって、青木下遺跡Ⅱの調査で明らかとなった祭祀遺構との関連、集落のあり方など遺跡の構造解明のための資料が得られる事となろう。

今回の開発対象地は、記録保存を原則とした発掘調査が実施されることと決定した。

### 3 村上氏館跡

所在地 坂城町大字坂城1148  
事業主体 満泉寺 齊藤 真光  
事業名 庫裡建設事業  
調査期間 平成10年3月9日～  
平成10年3月11日  
面積 151㎡ (69㎡)  
担当者 塩入 秀敏



発掘調査位置図

#### 遺跡の環境と経過

村上氏館跡は、坂城町坂城に所在し、日名沢川によって形成された扇状地の扇尖部に所在し、標高418m内外を測る。本遺跡は、中世に国人領主として活躍した村上義清の居館とされる。昭和49年に葛尾山頂にある葛尾城と本遺跡の村上氏館跡を一つのセットとして、村上氏城館跡と果史跡に指定されている。

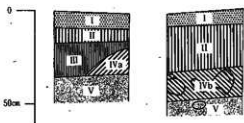
今回、満泉寺による庫裡建設が計画され、果史跡の現状変更申請が提出され、遺跡の状況を確認する事を目的として、試掘調査を実施することに決定した。これを受けて、坂城町教育委員会から長野県教育委員会へ試掘調査のための現状変更届を提出し、試掘調査を実施した。



南北トレンチ遺構検出状況 (南より)



東西トレンチ遺構検出状況 (東より)



- I層 壤土。
- II層 赤い黄褐色土 (10YR4/3) 粘質土。
- III層 赤い黄褐色土 (10YR5/4) 粘質土。
- IVa層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘質土。
- IVb層 暗褐色土 (10YR3/3) 粘質土。
- V層 黒褐色土 (10YR2/3) 包含層。

基本土層模式図



発掘トレンチ設定図 (1 : 100)

## 調査結果

調査は、庫裡建設予定地箇所を中心に2m×2mのグリッドを設定し、東西南北に合わせ、1列おきにトレンチ状に掘削する予定であったが、排土の関係からL字状にトレンチを設定し直し、遺構の状況を確認することとなった。調査では、V層からカワラケが出土したが、平面的にはなんら遺構が検出されなかったため、5～10cm下げた結果、土坑址及びピットが検出された。このためV層を遺物包含層、VI層を遺構の検出面とした。

検出された遺構は、土坑址7基、ピット11基であるが、その他として調査区南西端において、礎石状の石が2つ検出されている。芯々距離は185cmを測り、調査区外に続いていると仮定するならば、何らかの建物施設の存在を示唆できるかもしれない。周辺からは、骨片が検出され、それに伴うようにカワラケが集中して出土した箇所も存在し、何らかの遺構と見る事ができよう。

遺構は、今回の調査区の南西側に集中する傾向がある。

遺物については、III層からローリングした須恵器の破片が検出されただけで、他は遺物包含層としたV層より出土したものが、大半を占めている。出土したものはすべてカワラケで、軟質で黄褐色を呈している。完形遺物は少ないものの、全器形を伺いしれるものが多いといえる。大多数は、底部から内湾するカーブをえがきながら外反する坏形タイプであり、底部から急に立ち上がる皿形の器形は、ほとんど含まれていない。口径は、10～12cmを測るものが多く、カワラケとしては、中間タイプの大きさである。

今回の調査によって、出土遺構・遺物の所属時期は16世紀に位置づけられ、カワラケを多量に使用する施設があった事が実証された。カワラケを多量に使用する場所としては、城館跡が上げられる。本遺跡は、文献や遺構などから、昭和49年に村上氏城館跡として指定された経過がある。文献では、村上義清が武田晴信（信玄）により居城葛尾城を攻められ、長尾景虎（上杉謙信）を頼って越後に逃れたのが天文22（1553）とされている。出土土器の時期からも村上氏の時代の城館跡である可能性が非常に高くなったといえる。しかしながら、調査対象地の周辺は、住宅地となり城館跡としての縄張りなどが明確ではない部分が多く、今後解明していかなければならない部分が多い。

満泉寺の庫裡建設は、地下遺構に影響がないように盛土を実施し、建設する事となり、遺構は調査せず保存されるように決定したが、坂城町の歴史にとって村上氏は、極めて重要な存在である。関連遺跡の保護も焦眉の課題といえる。

## 4 南日名遺跡

所在地	坂城町大字坂城 4508-1
事業主体	坂城町総務課
事業名	コミュニティ消防 センター建設事業
調査期間	平成10年3月19日
面積	547㎡ (154㎡)
担当者	助川 朋広



発掘調査位置図

### 遺跡の環境と経過

南日名遺跡は、坂城町坂城に所在し、標高468m内外を測る日名沢川によって形成された扇状地の扇尖部に位置する。分布地図によると弥生から平安時代の集落址とされているが、詳細は不明な部分が多い。

今回、坂城町総務課によるコミュニティ消防センター建設事業が計画され、遺跡の破壊が余儀なくされたため、発掘調査を実施し、遺跡の範囲・性格を確認することとなった。

### 調査結果

調査対象地に東西方向に4本のトレンチを設定し、遺跡の状況を確認した。遺構は、第II層より検出され、土坑址・ピットが確認された。遺構は、4



2・3号トレンチ完掘（東より）



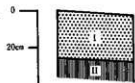
3・4号トレンチ完掘（北東より）



号トレンチ内からの検出で、他のトレンチからは検出されなかった。今回の試掘調査の結果、遺跡は調査対象地の南側に広がっているものと思われる。

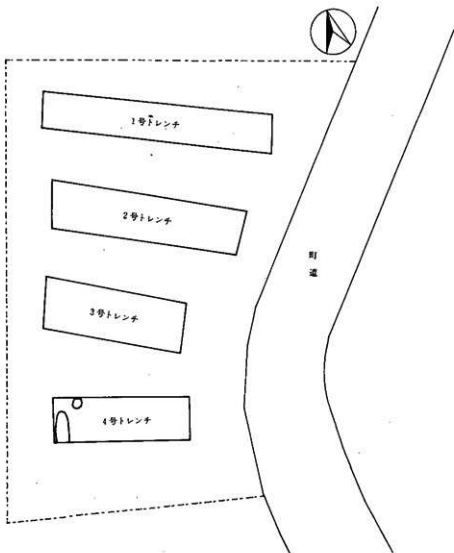
コミュニティ消防センターの建設は、遺構の存在しない場所の掘削となるため、今回遺構が検出された4号トレンチ周辺は、本調査を実施せず、保存する事となった。

なお、対象地内の4号トレンチ周辺において、開発が行われる場合は調査が必要である。



- I層 暗褐色土 (10YR3/3) 軽作土。  
 II層 暗褐色土 (10YR3/4) 粘質土。  
 礫 (φ 2cm~5cm) 含む。

基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1 : 250)

報告書抄録

よりがな	こみやまびーいせきほか ほくつちょうさほうこくし							
書名	込山B遺跡ほか 発掘調査報告書1997							
副書名	平成9年度試掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	坂城町歴史文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第13巻							
著者名	塩入秀敏・助川朋広							
編集機関	坂城町教育委員会							
所在地	〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2468 TEL0268-82-2069							
発行年月日	1998年3月30日							
よりがな 所収遺跡名	よりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
込山B遺跡	埴科郡坂城町 大字坂城	1521		36° 27' 50"	138° 11' 17"	1997年 5月6日～5月16日	571	町営住宅建設
青木下遺跡	埴科郡坂城町 大字南条	1521		36° 25' 30"	138° 11' 54"	1997年 6月3日～6月11日	460	店舗建設
村上氏館跡	埴科郡坂城町 大字坂城	1521		36° 27' 52"	138° 11' 06"	1998年 3月9日～3月11日	69	崖護建設
南日名遺跡	埴科郡坂城町 大字坂城	1521		36° 28' 02"	138° 11' 39"	1998年 3月19日	154	コミュニティ施設 センター建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
込山B遺跡	集落址	縄文～平安	住居址	土師器・須恵器		試掘調査		
青木下遺跡	集落・水田址	縄文～平安	溝状遺構・水田址	土師器・須恵器		試掘調査		
村上氏館跡	城館跡	中世	土坑址・ピット	カワラケ		試掘調査		
南日名遺跡	集落址	弥生～平安	土坑址・ピット	土師器		試掘調査		

坂城町埋蔵文化財発掘調査報告書

	【開畝製鉄遺跡—第1次調査報告書】	1977
	【開畝製鉄遺跡—第2次調査報告書】	1978
	【東裏遺跡】	1983
	【中之条遺跡群 宮上遺跡II】 (概報)	1993
	【南条遺跡群 塚田遺跡】	1993
第1集	【南条遺跡群 東裏遺跡II・青木下遺跡】	1994
第2集	【町内遺跡発掘調査報告書】	1994
第3集	【町内遺跡発掘調査報告書】	1995
第4集	【南条遺跡群 塚田遺跡遺跡II】	1995
第5集	【豊鏡堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡】	1996
第6集	【中之条遺跡群 寺浦遺跡II】	1996
第7集	【中之条遺跡群 上町遺跡II】	1996
第8集	【上五明条里水田址】	1996
第9集	【町内遺跡発掘調査報告書 1995】	1996
第10集	【坂城町試掘調査・立会い調査報告書】	1996
第11集	【町内遺跡発掘調査報告書 1996】	1997
第12集	【戊久保遺跡・町横尾遺跡】	1998
第13集	【込山B遺跡ほか 発掘調査報告書1998】	1998

---

発行日 1998年3月30日

編集者 坂城町教育委員会

発行者 坂城町教育委員会

〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2,468番地

TEL 0268(82)2069

印刷者 信毎書籍印刷株式会社

〒381-0037 長野市西和田470

TEL 026(243)2105

---